令和４年２月２日

令和４年千葉市教育委員会会議第２回定例会

［参考資料］

議案第２号関係

特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画（案）　概要版

千葉市では、特別史跡加曽利貝塚について、貝塚を中心とする縄文文化の研究とその成果を発信する拠点として、史跡のガイダンス機能等を備えた新たな博物館を整備します。

縄文文化とSDGsを学ぶことができる博物館を目指し、その事業活動計画や施設計画、管理運営計画等をまとめ、基本計画を策定しました。

第Ⅰ章　新博物館の基本的な考え方

【新博物館のコンセプト】

生　き　て　い　る　縄　文

学び、体験し、考える

―それは未来への道しるべ―

数千年の長きにわたり自然と調和・共存し築かれてきた縄文人の暮らしと文化は、人間社会の原点として、現在の私たちの生活・文化の根底をなすものであり、過去のものではありません。私たちはこの「生きている縄文」を学び、体験し、現代や未来との関わりを考えることで、「未来への道しるべ」とします。

- 最新の調査･研究によって縄文文化の実像を明らかにしその成果を世界に発信する
- 最新の調査･研究成果に基づいて縄文時代の空間を再現し全身で体験できる機会を提供する
- 縄文から学び、現代そして未来に活かせることをともに考え発信する場を提供する
- 現代と縄文時代をつなぐ存在としていつも身近にあり誰もが参加できる場を提供する

【特別史跡加曽利貝塚における新博物館の役割】

①加曽利貝塚の価値の保存と継承
- 国内最大級の貝塚
- 考古学、遺跡保存上の価値
- 周辺の豊かな自然環境　など

②加曽利貝塚の目指すべき姿の実現
- 縄文文化と貝塚の研究拠点
- 縄文を体感できる史跡
- 地域交流の中核拠点
- 持続可能な未来を探る史跡

③現博物館が培ってきた特色ある活動の継承と発展
- 縄文土器づくり
- ボランティアガイド
- 縄文体験、縄文食　など

【新博物館の基本方針】

① 貝塚を中心とする縄文文化の解明の拠点としての活動

縄文時代の文化と社会に関わる調査･研究及び資料の保存と活用の拠点として、その成果を広く世界に発信する活動を展開します。

② 自然と調和･共存する持続可能な未来の実現を目指す博物館活動

縄文の持続可能な人々の暮らしを探る調査･研究を行い、その成果を博物館における幅広い活動を通して、SDGsを推進するとともに、持続可能な未来を拓く人材を育成する活動を展開します。

③ みんなでつくる･育てる博物館の実現

市民とともに歩んできた加曽利貝塚の伝統を継承し、関係機関との連携を拡大するとともに、これまで以上に市民との協働を重視した活動を展開します。

また、計画段階から市民や関係機関の参画を促進し、開かれた博物館づくり、博物館運営を進めます。

④ 加曽利貝塚への様々な興味･関心･幅広いニーズへの対応

多様な興味･関心･ニーズを把握し、より多くの人がそれぞれの方法で加曽利貝塚に親しみ、その価値や魅力に触れることのできる活動を展開します。

⑤ 体験の重視

縄文時代の景観と人々の暮らしを体験･体感できるよう、新博物館と特別史跡を一体的に活用していくことを重視し、充実したプログラムを展開します。

【ＳＤＧｓに基づく新博物館の取組み】

※Sustainable Development Goals
誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030 年を年限とする 17 の国際目標

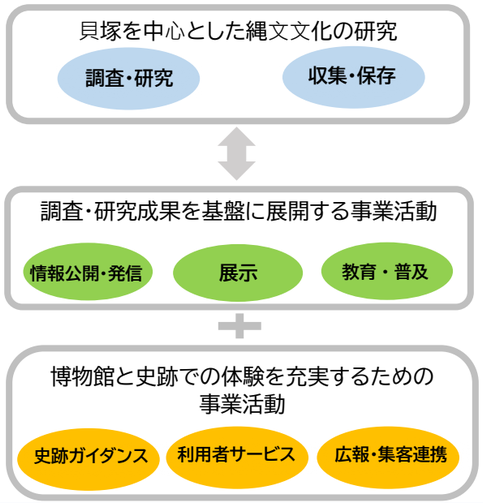
① SDGsに沿った博物館整備･運営の推進
- ･様々なパートナーシップにより、収集･保存、調査･研究を推進します。
- ･縄文時代の気候変動や資源の利用法を伝え、自然環境と人間生活の関係を考える展示を行います。
- ･展示や教育･普及活動を通じ、SDGsや環境問題を学ぶ場として、学校教育等での活用を図ります。
- ･水やエネルギーの効率を高め、安全に利用でき、長く使われる公共施設を目指します。
- ･地域振興や市民への波及効果を想定しながら、透明性の高い管理運営を行います。

② 縄文社会の持続可能性等、SDGsの視点に配慮した調査･研究等の活動の展開

第Ⅱ章　事業活動計画

【事業活動の全体像】

調査・研究と収集・保存を基盤とし、情報公開・発信、展示、教育・普及などの博物館の中核となる機能に加え、史跡ガイダンス、利用者サービス、広報・集客連携など博物館と史跡での体験を充実させるための事業活動を行います。



【事業活動の方針】

1．活発な調査・研究を行います

貝塚を中心とした縄文文化を解明するための施設と体制を備えるとともに、各分野との幅広い連携により研究ネットワークを築き、活発な調査・研究を推進します。

2．調査・研究のプロセスや最新の成果を素早く発信します

調査・研究の成果を世界に発信するとともに、その過程も紹介することで、来館者が興味を持って身近に触れられる場を設けます。

3．縄文時代の暮らしをまるごと体験する機会を提供します

最新の調査・研究成果に基づいて、縄文時代の空間を再現・演出し、来館者が当時の暮らしをまるごと体験する機会を提供します。

4．自ら学び、考える仕掛けを重視し、生きる力を育みます

体験や展示を通して知識を得るだけでなく、来館者が現代の暮らしの課題を解決するヒントや未来に活かせるよう、問いかけ・対話などの仕掛けやサポートを充実します。

5．誰もが気軽に集い、交流が生まれる空間を提供します

何度でも通いたくなるワクワクするような空間や体験を提供するとともに、誰もが気軽に集うことのできる、親しみやすく、居心地の良い空間を演出します。

第Ⅲ章　施設計画

【施設整備の方針】

① 特別史跡加曽利貝塚との連続性の確保
- ･史跡や周囲の自然環境との調和
- ･史跡を望む展望設備の整備、史跡へ誘う仕組みづくり

② 博物館としての機能拡充
- ･調査･研究機能の拡充とその公開
- ･登録博物館や公開承認施設の基準に適合する整備

③ SDGsに沿った施設整備と災害への対応
- ･エネルギー効率向上、環境負荷軽減への配慮
- ･災害から命や資料を守り、災害時の避難･救助に寄与する整備

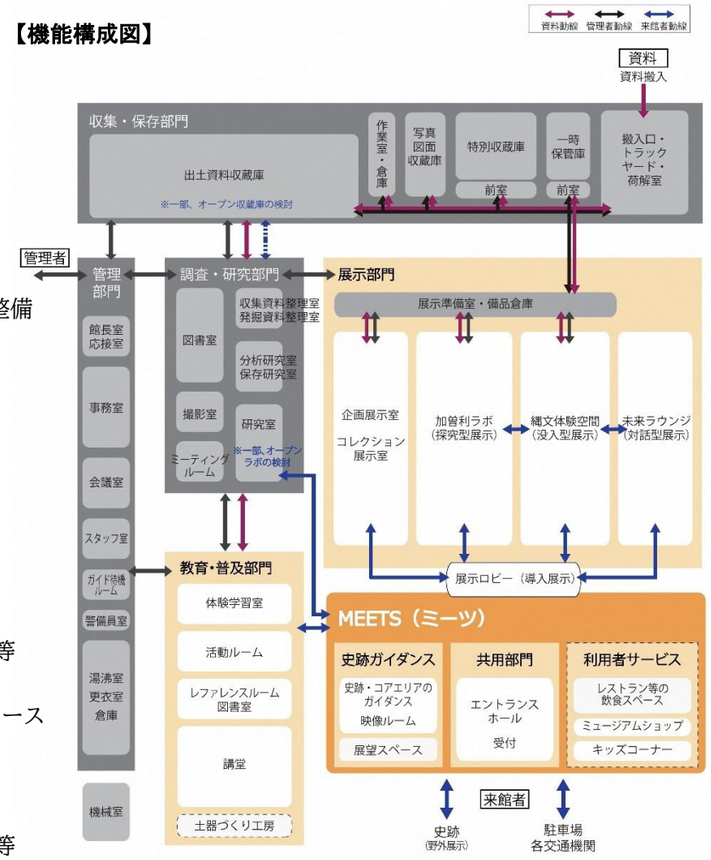
④ 出会いや地域交流の場としての機能拡充
- ･起点となる「ミーツ（MEETS）」の整備
- ･博物館活動の積極的な公開
- ･民間活力の導入

⑤ 博物館へのアクセスの拡充
- ･最寄り駅やバス停からのアクセスの拡充、駐車場確保
- ･新博物館から史跡までの歩行空間の整備

【諸室の構成】　想定延床面積約 4, 800 ㎡

① 収集･保存部門 ： 各種収蔵庫、荷解室、作業室　等
② 調査･研究部門 ： 研究室、図書室、資料整理室　等
③ 展　示　部　門 ： 常設展示室、企画展示室、展示準備室　等
④ 教育･普及部門 ： 体験学習室、講堂、活動ルーム　等
⑤ 史跡ガイダンス部門: 史跡ガイダンス、映像ルーム、展望スペース
⑥ 利用者サービス部門: レストラン、物販、キッズコーナー　等
⑦ 管　理　部　門 ： 応接室、事務室、会議室、倉庫　等
⑧ 共　用　部　門 ： エントランス、廊下、階段、トイレ
電気･機械部門　中央監視室、空調機械室、電気設備室　等

【機能構成図】



特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画（案）　概要版

第Ⅳ章　展示計画

【常設展示】

展示の中核となる探究型展示「加曽利ラボ」、最新の研究成果を反映させた没入型展示「縄文体験空間」、対話型展示「未来ラウンジ」の3つのエリアで構成し、来館者が興味や関心に応じて、自由に見学できるようにします。

①　探究型展示「加曽利ラボ」

～研究者になったつもりで、縄文時代を深く探究～

・展　示　　縄文文化と貝塚の魅力や価値を分かりやすく紹介します。
調査・研究の進展に合わせて随時更新ができる構成とします。
貴重な出土資料の保存環境に配慮した展示環境を確保します。

・アクティブラボ　来館者が調査・研究の一端を体感できる体験を提供します。

・オープンラボ　　学芸員などの活動エリアを公開し、調査・研究のライブ感を伝えます。

展　示

アクティブラボ・オープンラボ

展示の裏付け
研究成果の反映

②　没入型展示「縄文体験空間」

～縄文人になりきり、縄文の世界を楽しむ没入体験～

・縄文時代の加曽利のムラと周辺環境を再現した空間で、縄文人になりきって暮らしや文化を体験できる空間を整備します。

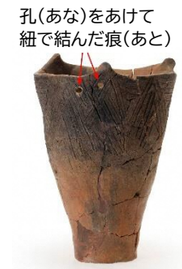
・屋外や史跡内での体験との連携・すみわけを図り、相乗効果が得られる効果的な体験を提供します。

・デジタル技術の導入により、時間や季節の移り変わりを演出するなど、没入できる空間を創出し、来館者が自ら手や体を動かすアナログの体験をバランス良く盛り込みます。

・資源の有効活用など、縄文社会の持続可能性を学ぶことができる体験プログラムを提供します。

没入型展示「縄文体験空間」イメージ

丸木舟を漕いで坂川を下る



補修した痕が残る縄文土器
（加曽利貝塚出土）

③　対話型展示「未来ラウンジ」

～縄文文化についての対話を通じて、
未来へのヒントを得る～

・縄文時代のイメージを見直し、持続可能な社会の実現など、現代における課題を考えるきっかけとなる場を整備します。

・意見やアイデアを共有し、多様な活動や交流が展開できる環境を整えます。

・オンラインでの情報発信や交流での活用も検討します。

対話型展示「未来ラウンジ」
空間イメージ

【活動例】
・展示や体験を通じて学んだことをもとに、持続可能な社会の実現に向けて、対話し、考える。
・地域の学校や国内外の博物館等とつなぐプログラムなどを開催する。

【企画展示】
・企画展や特別展の開催
・発掘調査や研究の成果の公表
・巡回展の積極的な誘致

【コレクション展示】
・寄贈・寄託資料などのコレクションの展示
・新たな資料の収集による更新性の確保

【導入展示】
・各所で、常設展示や企画展示などへの興味喚起を展開

第Ⅴ章　管理運営計画

【管理運営の方針】

① 調査・研究体制の強化
・縄文文化と貝塚に関わる研究の拠点施設としてふさわしい調査・研究体制を実現します。
・外部の研究機関や研究者との連携を推進します。

②「みんなでつくる・育てる博物館」を体現する運営体制の構築
・計画段階から様々な主体が関わるために必要な運営体制を構築します。
・既存の博物館支援活動の活性化を図り、新たな市民参画を促進します。

③ 活発な博物館を持続的に展開するための工夫
・効率的な運営の仕組みを構築し、評価・改善システムを検討します。
・外部資金の確保に向けた取組みを積極的に展開します。

④ 市民や利用者の満足度を高める運営の実現
・多様な利用者や利用形態に対応した、きめ細やかなサービスを提供します。
・市民や利用者の立場に立った開館時間や利用料金を検討します。

【管理運営方式】

調査・研究を中心に直営を維持します。また、増加する業務の効率化とサービスの向上を目指し、包括的な民間委託等の導入を検討します。

【管理運営体制】

博物館の機能に加え、縄文時代の文化と社会や貝塚に関する調査・研究機能を組み込んだ体制とします。

第Ⅵ章　整備に向けて

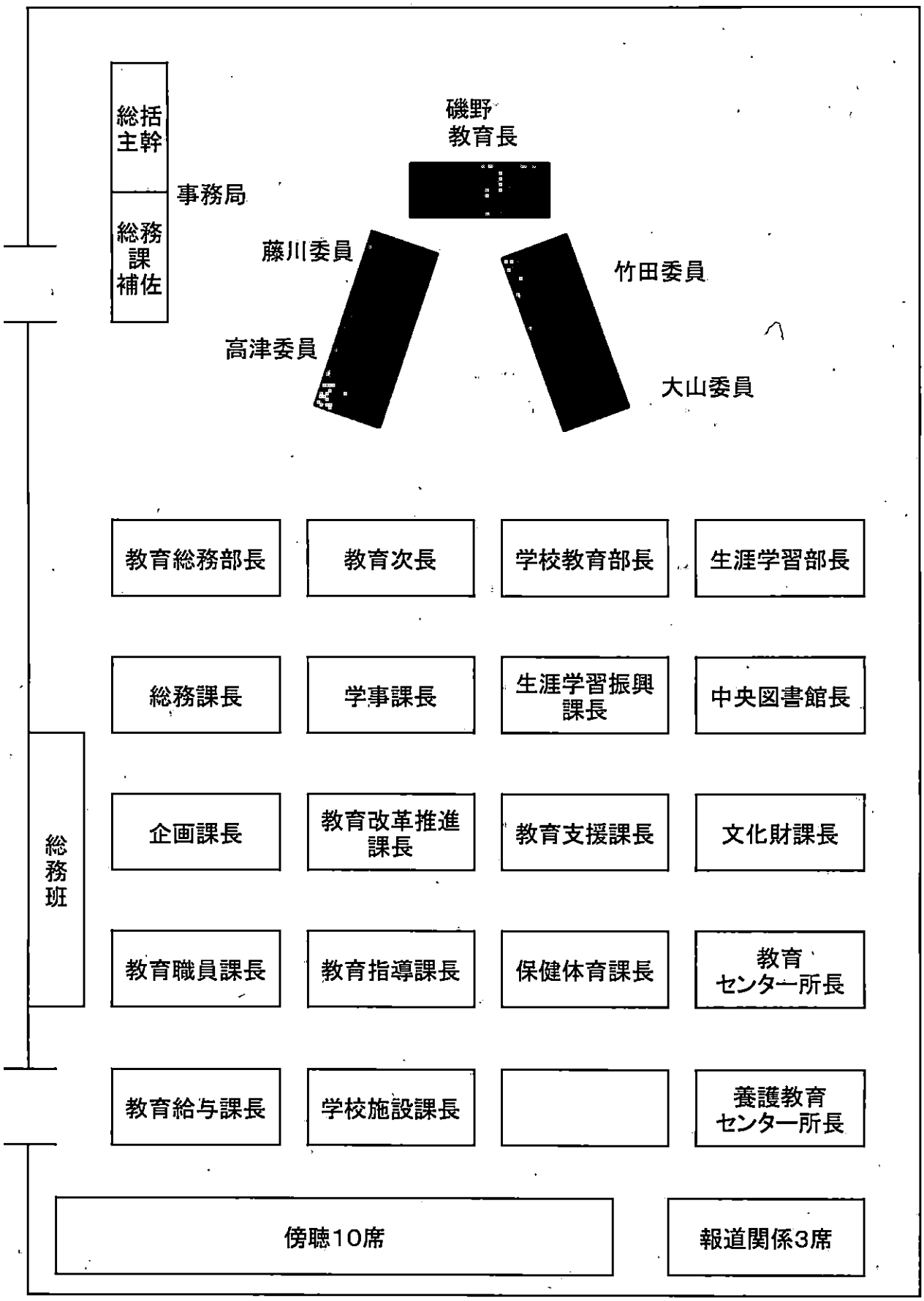
【基本的な考え方と事業手法について】

・集客活用エリアのうち博物館用地に隣接する部分を緑地として活用し、一体的に整備することを想定します。
・レストラン等の飲食やミュージアムショップなどは、設計・建設から維持管理・運営まで独立採算で行う民間施設を併設する形態をとることを想定します。
・博物館の事業手法については、設計・建設の段階から運用のしやすさなどを見据えた整備が期待でき、トータルコスト面で優位な DBO 方式を導入します。

【概算整備事業費】 建築設計・工事費、展示設計・製作設置費、備品・開設準備費

・約50億円（消費税込み）を想定します。

・造成等に要する事業費や運営費は、要求水準書を作成する中で精査していきます。

【スケジュール】
令和4（2022）年から要求水準書の作成に着手
令和5（2023）年度までに事業者を選定
令和6（2024）年から整備に着手
令和9（2027）年度の開館を目指す

令和4年教育委員会会議第2回定例会出席者（第一・第二会議室）